

# 『学びとる力』を育てる中学校社会科の授業実践

——地理的分野「身近な地域・松江」の学習を通して——

岩 田 靖

## I はじめに

21世紀を目前に控え、高齢化・情報化・国際化が加速度的に進む中で、新しい時代に生きていくためには、自己を見つめながら主体的に学び続ける「意志・態度・能力」の育成、つまり「自己教育力」とか「学ぶ力」の育成が今日の大きな課題であると言われている。また、このような「学ぶ力」の源泉として「学びとる力」の育成も重要な課題となっている。本校社会科部では、「学びとる力」を「社会的事象の中から問題や課題を発見し、科学的な方法によって追求できる学習技能と社会的事象に主体的にねばり強く立ち向かっていく意欲や意志」としてとらえ、その要素を①社会的事象に問いかけ問い続ける態度 ②社会的事象を多角的・多面的に考察しようとする態度 ③社会的事象を科学的方法で追求する学習技能 ④学習を自己評価・相互評価できる技能と自己の学習を客観的に把握しようとする態度であると考えた。

このような能力や態度を育成していくためには、問題解決（探究）的な学習に自力で取り組み、探究のプロセス（仮説—検証）を体験させることが何より有効な手立てと考え、学習内容も従来の網羅的なものの精選を図り、社会的論争問題や地域の将来像や近未来社会の構想など、範例的学習を積極的に導入して行こうと考えた。また、こうした学習を進める上で、問題の発見—原因の探究—問題点の究明—問題解決のあり方<sup>注2)</sup>という学習過程の基本型を構想した。本稿では、社会科部で構想した指導方法を「身近な地域」の学習で実践し、単元の構成や「学びとる力」を引き出す授業の実際はどのようなものなのか、考えてみようとするものである。

## II 単元の構成

### 1. 単元構成の基盤

地理的分野における「身近な地域」の学習（野外観察を含めて）の重要性はよく説かれるものの実践報告は極めて少ない。しかしながら、現在報告されているものと<sup>注3)</sup>指導法・学習内容については教師中心の網羅的なものに<sup>注4)</sup>陥っているように思われる。そこで、「学びとる力」を育てるために、範例的学習にふさわしい教材を本校社会科部が設定した「本質性」・「誘惹性」・「課題性」・「実証性」という5つの選択基準から考え直してみた。松江のかかえる課題の中から交通渋滞の問題を取り上げるとすることは、松江の独得な地形的特色をつかむ上でも、また、急激な都市化現象による変化や、行政当局の対応等を多角的に知る上でも有効な手がかりとなろう。さらに、これらの問題の背後には、松江の城下町としての発達史があり、指導書に示す歴史的分野における郷土学習との関連も大いに図っていけるものと考えた。また、都市開発と町並みの保存や個人の権利等とのかかわりを考えながら問題を解決していこうとする態度を育成する上からも格好の教材であり、広く他の地域

の学習へも応用でき、問題解決（探究）型の学習が展開できる教材だと思う。

一方、生徒の松江に対するレディネス調査（S 61.4.28 実施対象 2年1組45名、3組42名、計87名）によれば、新聞やテレビ等マスコミで報道で<sup>注5)</sup>されることについてはよく知っているものの、身近に接していることに対しては案外気づいていなかったり、気にとめないでいるといった傾向が見られた。さらに、多くの者が松江は「好き」と答えながら、関心や将来像については否定的な解答をする者が多く、「わからない」と答える生徒の多さに驚かされた。

結局のところ、事実認識も浅く、また、深く追求して考えてみたこともないといった実態であった。

以上のことから、本単元を構成するにあたって、

①「交通渋滞の現状とその影響はどうか」②「なぜ交通渋滞が起きるのか」③「行政側は、どのような対応をしているのか」④「交通渋滞を解消するためには、どのようにしたらよいのか」などの諸点について深めさせていきたい。とりわけ②の検証過程の中に野外観察を組み込み、追求の深化を図りたい。また、単元全体を通して、社会的事象を多角的・多面的に深めさせていくために、歴史的なとらえ方や立場による違いを考えさせたり、様々な見方・考え方をさせていくよう構想した。なお、単元のはじめに、こうした学習を進める上で必要となる地形図の読み取り、活用の技能や能力を身につけさせるための指導を位置づけた。

①「交通渋滞の現状とその影響はどうか」②「なぜ交通渋滞が起きるのか」③「行政側は、どのような対応をしているのか」④「交通渋滞を解消するためには、どのようにしたらよいのか」などの諸点について深めさせていきたい。とりわけ②の検証過程の中に野外観察を組み込み、追求の深化を図りたい。また、単元全体を通して、社会的事象を多角的・多面的に深めさせていくために、歴史的なとらえ方や立場による違いを考えさせたり、様々な見方・考え方をさせていくよう構想した。なお、単元のはじめに、こうした学習を進める上で必要となる地形図の読み取り、活用の技能や能力を身につけさせるための指導を位置づけた。

2. 単元「身近な地域・松江」の目標分析表（→資料①）

3. 単元「身近な地域・松江」の学習指導計画（→資料②）

### Ⅲ 実践と考察

前章で示した単元構成の考え方に基づいて、昭和61年5月20日～7月18日にかけて、2年生の4クラスを対象に授業実践を試みた。ここでは、単元構成の考え方①～④がどのように展開されたか、「学びとる力」を育成していく上でどのような効果がみられたか、等の点について述べてみたい。

#### 1. 実践の経過

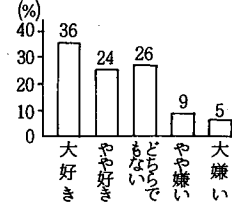
##### (1) 問題の発見・原因の予想

前時までの4時間で地形図の読み取り・活用の指導を行い、最後に松江の地形的な特色からわれわれの生活にどんな問題を引き起こすか予想させた。この調査結果の発表から本時（第5時）を展開し、交通渋滞の問題に視点を当てていった。続いて交通渋滞の様子をV・T・Rで実際に視聴させ、自分たちの経験や島根県警察本部の資料によって渋滞のひどい場所を確認した。また、渋滞に苦しむAさんの話をテープで聞かせ、Aさんへの共感を図った。「Aさんは、今、どんなことを願っているだろうか」という発問に対して、「道路をつけて欲しい」「渋滞をなくして欲しい」「会社がもっと近かったら」など

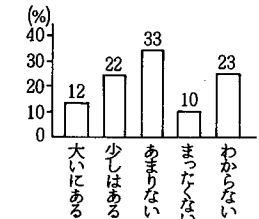
○最近の松江の変化(上段)・問題点(下段)一複数解答一

行政	産業	交通	社会生活	自然	開発公害	その他	無答
0	11	18	47	2	18	3	18
0	1	4	1	0	66	3	12

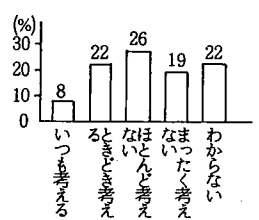
○松江をどう思うか



○松江に関心があるか



○松江の将来について考えるか



〈資料①〉 単元「身近な地域・松江」の目標分析表

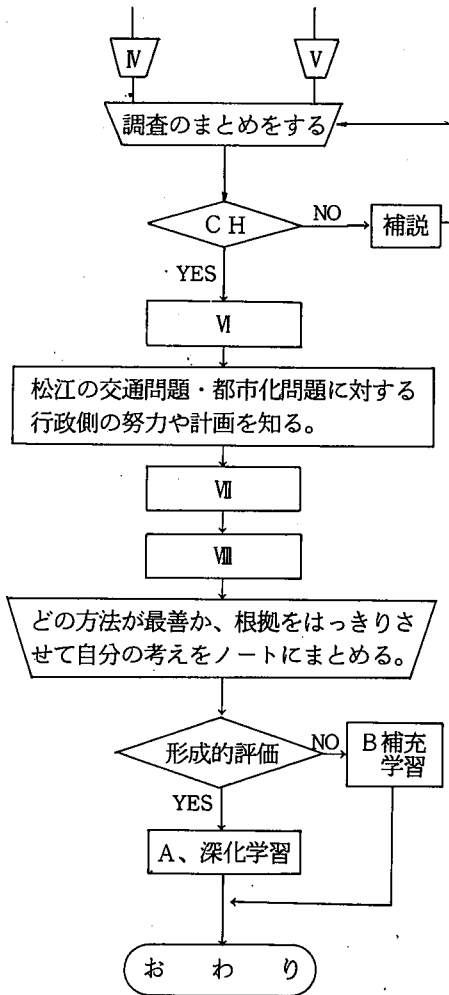
内容	体験	基礎・基本			学 び 方	情 意	
		認 知		技 能		興味・関心	社会的態度
		事 実 認 識	関 係 認 識				
地図 見たよ 松江		④地図記号の意味や方位・距離・土地の高さが指摘できる。	⑨新旧の地図を見て、その変化が指摘できる。		⑬等高線を基に段彩図や断面図を描くことができる。		
松 江 の 交 通 問 題	①交通渋滞に苦しむ人々の心情を思いやる。 ②野外観察を通して松江の道路事情等にふれる。 ③城下町松江を守りながら交通問題の解決に努める人々の姿にふれる。	⑤松江の交通渋滞が通勤者に与えている影響について指摘できる。 ⑥交通渋滞に苦しんでいる人々の心情や願いをそれぞれの立場と関連づけて説明できる。 ⑦交通問題が解決しない理由について、松江のもつ城下町としての発達や歴史や地理的条件、現在のスプロール現象や交通手段の変化等と関連づけて説明できる。 ⑧交通問題の解消を目指して様々な努力がなされていることが指摘できる。	⑩交通問題の解消と松江のもつ独得な町並みの保存との関係が説明できる。 ⑪松江の交通問題を様々な視点から総合的に説明できる。 ⑫望ましい問題解決のあり方を総合的な立場から論理的に説明できる。	⑭検証可能な仮説を立てることができる。 ⑮野外観察の計画・実施が課題に基づいてできる。 ⑯課題についての話し合いやレポートの作成ができる。	⑰交通渋滞に苦しむ人々に共感的な立場をとりながら課題設定ができる。 ⑱自ら資料を収集・選択しながら交通問題の原因追求ができる。 ⑲仮説を検証することができる。 ⑳交通問題に対する行政側の立場に立ち、その原因を再追求できる。 ㉑いろいろな立場をふまえて、よりよい問題解決の討議ができる。	㉒交通問題に興味をもつ。 ㉓野外観察や資料収集に積極的に取り組む。 ㉔松江の交通問題解決に対する自分なりの考えを進んで述べようとする。	㉕交通問題の解決や開発のあり方を松江のもつ特性をふまえて多面的に考える。

〈資料②〉 単元「身近な地域・松江」の学習指導計画（全14時間）

内容	過程	時間	目標	学 習 活 動	追 求 の 場	留 意 事 項
地図より見た松江	地形図利用の基礎・基本	4	④ ⑬	はじめ 2万5千分の1の地形図「松江」を利用して地図のきまりを調べたり地図作業をする。	地形図を利用するための基礎・基本を確認するための追求の場  I、新旧の松江市の地形図を比較し、その変化を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業学習を中心に、基礎・基本の定着を図る。作業学習を行う際には、適当な場所に視点を当てて作業をさせる。</li> <li>上乃木一菅田線の開通及び、西川津周辺地域の都市化について、その変化に気づかせる。</li> <li>地図の読み取りや、段彩図や断面図が描けるか。</li> <li>A：同じ城下町である他の都市と松江との違いを見つけさせる。</li> <li>B：地図のきまりを復習し、地図作業を再度行う。</li> </ul>
			⑨	Ⅰ 形成的評価 NO → B 補充学習 YES → A、深化学習		
松	問題の発見  原因の探究	1  7	⑤ ⑳	交通渋滞に苦しむ人々の心情に共感する。	Ⅱ、松江の交通渋滞の現状をつかみ、問題場面を発見する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドライバーや歩行者等、様々な立場から交通渋滞の与える影響について考えさせ、その心情に共感させる。</li> <li>予想から検証可能な仮説へと高めて行くと同時に、検証の為に必要な資料についても考えさせる（班で分担して検証にあたる）。</li> <li>仮説に基づいて観察・調査・聞き取りの計画を立てさせ、ルートマップや記録用紙に記入させる（仮説によっては統計資料等の収集を並行して行わせる）。</li> <li>CH：仮説を検証するために適切な計画が立てられたか。</li> </ul>
			① ⑥ ⑰			

並田 暉

江 の 交 通 問 題	(野外観察を含む)	②④⑮ ⑱⑳
	問題点の究明	⑦⑪⑱ ⑲
問 題 解 決 の あ り 方	1	③⑧ ⑪⑱⑳
	1	⑩⑱⑳ ⑳⑲
		⑫⑯



追求の場(2)

一班でそれぞれ追求するー

N、野外観察により仮説を検証する。  
・道路が狭く曲がりくねっている。・交差点や信号機が多い。等

V、図表・統計資料により仮説を検証する。  
・人口や自動車所有台数が増加してきた。等

課題を解決して行くための原因追求の場(3)

VI、発表会による全体場で仮説を検証する。

課題を解決して行くための原因追求の場(4)

VII、行政の側にとって交通問題について再度追求する。

よりよい問題解決の方法について追求する場

VIII、いろいろな立場をふまえた上で交通問題のよりよい解決のあり方について話し合う。

よう、また、調査に無理がないよう配慮する。

○調査したこと（検証結果）や、新たな発見、疑問を発表できるようにまとめさせる。

CH：調べた事（仮説の検証）がきちんとまとめられているか。

○班ごとに発表し、仮説を検証する中で、松江の城下町としての発達の歴史や現在の都市化の問題について補充資料を入れながら深く考えさせる。

○交通問題を解決するためには、巨額な経費が必要なことに気づかせる。

○城下町「松江」の持つ利点と欠点とを明らかにする中で観光と開発に焦点を当てて行く。

○伝統や文化の保護と都市開発とをどのように進めて行ったらよいのかあらゆる立場から考えさせる。こちらをとればこうなるということに合わせて指摘させる。

○松江の持つ特性と現在の都市化現象ともなう交通問題の変化と現状について指摘できるか。

A：レポート「松江の交通問題のよりよい解決のあり方について」

B：ノート整理「交通問題から見た松江の発展の歴史と現状について」

とAさんにかわってその願いや不満が出された。

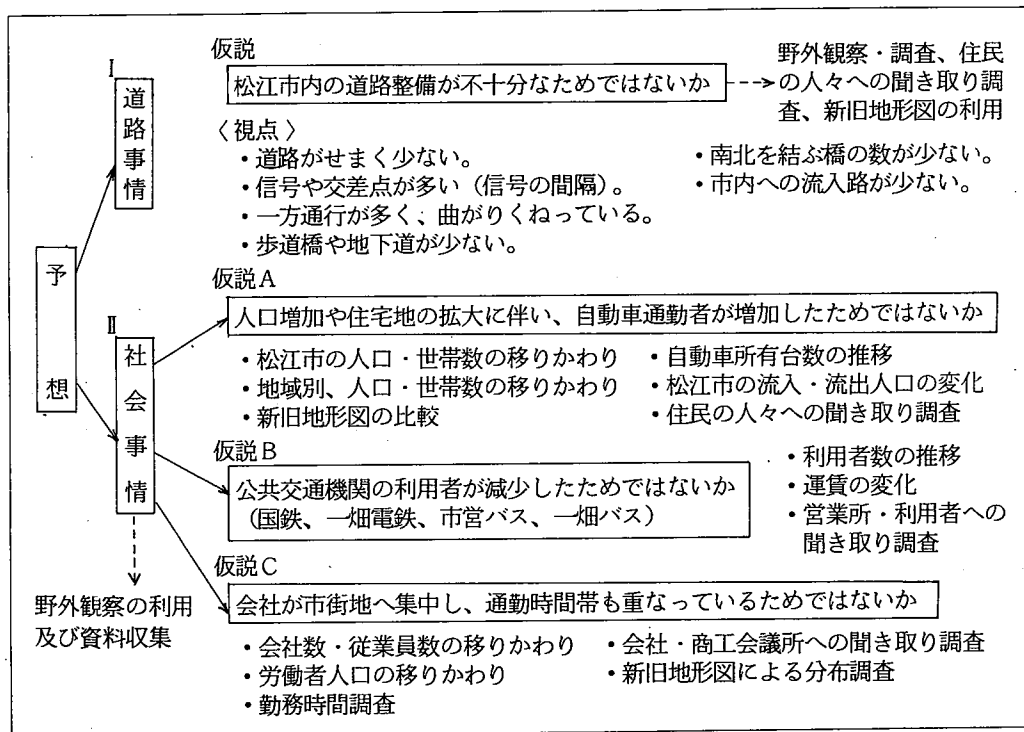
そこで、「なぜ松江の町に交通渋滞が起きるのか」という課題で、班単位で原因の探究に入っていた。下表は4組で出された予想の一部である。

1 班	2 班	3 班
<ul style="list-style-type: none"> <li>○道路が少ない。</li> <li>○車の利用者が多い。</li> <li>○まがりかどが多い。</li> <li>○住宅地と中心地が離れている。</li> <li>○バス利用者が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通勤時刻がほとんど同じ。</li> <li>○橋が少ない。</li> <li>○道路がせまい。</li> <li>○信号の「青」が短い。</li> <li>○一方通行路が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交差点や信号が多い。</li> <li>○会社や学校の始まる時刻が同じ。</li> <li>○急に住宅地が増えたので道路が足りなくなった。</li> </ul>

(2) 原因の探究

ア、仮説づくり (第6時)

前時に出された上記の様な予想のうち、明らかにおかしいと思われるものを除き、同じものや関連のあるものをまとめ仮説づくりを行い、さらにこの仮説を検証するために必要な資料の想定を各班分担して行った。4組でつくられた仮説及び想定された資料をまとめると次のようである。

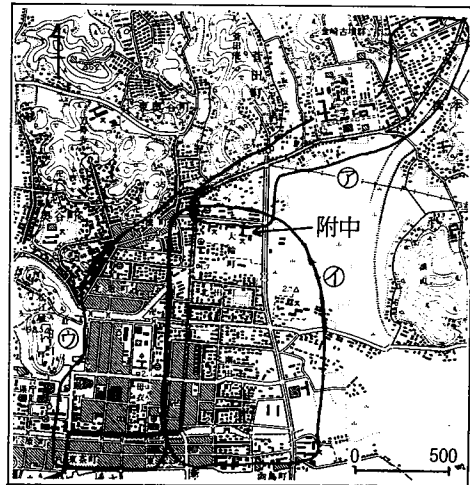


イ、仮説の検証

前時に作られたⅠ道路事情・Ⅱ社会事情のそれぞれの仮説について、Ⅰは全ての班が、Ⅱはどれか1つを検証するように指示した。この検証活動の中に野外観察を位置づけ、これと並行して資料収集を進めるようにさせた。しかし、時間の関係で資料収集・まとめは放課後及び家庭学習という形にな

った。

〈野外観察〉 野外観察では、主にⅠ道路事情の面を観察・調査し、時間が許せば自分たちの受け持っているⅡ社会事情の面を調べることにした。第7時でルートマップを作成し、第8・9時（午後2時間続き）に2クラスずつ日をかえて野外観察に出かけた（1組・2組－6月24日、3組・4組－7月2日）。観察の範囲は時間を考慮し、右の地図に示す通り3つに分け、仮説Ⅱ-Aの班は①に行くように計画した。



ここで、野外観察に対する生徒の感想を2～3紹介しておきたい。

- ・班がまとまって行動できて良かったと思う。思ったよりたくさんインタビューができた。みんなもっと道路のことに無関心かと思ったけれど、インタビューに答えてくださった人たちは、まじめに考えておられた。いろいろな意見があったけど、「市に言ってもムダだ」「しかたがない」という意見には悲しい思いがした。（Y・K女）
- ・まあ調べることは調べられたので良かったが、聞きこみの時など、少し活力が足りなかったように思う。もっと自分の役割を責任を持って果たさないと成功はしない。こうやって自分たちで調べて分かったことは、本にかぶりついて勉強するよりもしっかりと頭の中に入れていくように思う。（Y・M男）

〈検証結果の発表・検討〉 野外観察が終わり、平行して検証活動を続けていたⅡ社会事情と合わせて発表・検討会を計画した。第10時を発表のためのまとめ・準備の時間とし、第11時と第12時の前半少々を使って実施した。次のワークシートは、Ⅱ社会事情面をどのように追求し結論づけていったかを示す例である。

（仮説Ⅱ-Aについて）

なぜ松江の町に交通渋滞が起きるのか																															
仮説	<p>〈社会事情の中から〉</p> <p>車の所有の増加 → 車での通勤の増加      人口増加 → 住宅増加 → 住宅地拡大</p>																														
資料	<p>島根統計書      島根県交通量調査表      人口増加 → 住宅増加 → 住宅地拡大</p> <p>松江市統計書      松江の地図      ・車の所有する人がふえ、車で通勤する人が多くなったため。</p> <p>島根統計百年史      ・人口がふえて、住宅地が拡大したため、車を使い通勤する人がふえたため。</p>																														
検証	<p>松江市の土地利用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>農地 (%)</th> <th>耕地 (%)</th> <th>山林 (%)</th> <th>原野 (%)</th> <th>その他 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昭和45年</td> <td>12%</td> <td>21%</td> <td>45%</td> <td>21%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>50年</td> <td>8%</td> <td>24%</td> <td>44%</td> <td>22%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>55年</td> <td>7%</td> <td>23%</td> <td>44%</td> <td>24%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>60年</td> <td>6%</td> <td>22%</td> <td>43%</td> <td>23%</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(地図) ・31年のと55年のを比べてみると一目で住宅地が拡大したことがわかる。また、耕地や山林は少なくなっている。</p> <p>31年の地図では市街地から遠くまであり発達してなかったところが、55年の地図では住宅地として発達している。</p> <p>上乃木や浪乃木は昔は山だったけど今はほとんど家が建っている。住宅地はほとんど家が建っている。昔は山が多かったけど今はほとんどが住宅地になっている。</p>	年	農地 (%)	耕地 (%)	山林 (%)	原野 (%)	その他 (%)	昭和45年	12%	21%	45%	21%	2%	50年	8%	24%	44%	22%	2%	55年	7%	23%	44%	24%	2%	60年	6%	22%	43%	23%	2%
年	農地 (%)	耕地 (%)	山林 (%)	原野 (%)	その他 (%)																										
昭和45年	12%	21%	45%	21%	2%																										
50年	8%	24%	44%	22%	2%																										
55年	7%	23%	44%	24%	2%																										
60年	6%	22%	43%	23%	2%																										

(具体的な資料・情報の内容とその読みとり・解釈)

### 松江市の人口 (単位:人)

年	人口
昭和25年	45,000
昭和26年	48,000
昭和27年	55,000
昭和28年	52,000
昭和29年	85,000
昭和30年	95,000
昭和31年	105,000
昭和32年	115,000
昭和33年	125,000
昭和34年	130,000

### 松江市の住宅数 (単位:軒)

年	住宅数
昭和25年	25,000
昭和26年	28,000
昭和27年	32,000
昭和28年	35,000
昭和29年	38,000
昭和30年	40,000
昭和31年	42,000
昭和32年	44,000
昭和33年	46,000
昭和34年	48,000

### 土地利用

(田)・宅地はやはり増えている。耕地や山林はへってき下るというよりは、耕地や山林を削りて宅地になっているというところだと思ふ。

### 人口

戦後、ベビーブームにより、ぐんと増加し、その後、しずりと増加しつづけている。

### 住宅数

一年に千軒の割合合いで増加している。  
 ・五分、ここからほとんど増加する外はない。

### 保有自動車台数 (松江市)

年	台数
昭和25年	0
昭和26年	100
昭和27年	200
昭和28年	500
昭和29年	1,000
昭和30年	2,000
昭和31年	3,000
昭和32年	4,000
昭和33年	4,500
昭和34年	5,000

### 保有自動車台数

・四十年方からぐんと小えてきた。  
 ・少ないが、車が多くなるので、道路下はなかなか追いつかないと思ふ。

### 松江市の交通量

観測地点・地名	55年度	60年度
松江市東津田町	17,563	18,210
西津田町	18,404	20,824
萩原町394	6,030	7,146
米子町2	10,096	10,322
南田町30	17,147	9,026
西川津橋本441	11,864	17,371
冠生町79-4	4,737	4,336
古志原町635	13,006	17,422
上乃木町23-7	13,298	8,188
本郷町2-27	14,424	11,054
東本町	23,200	15,610
朝日町498	10,390	10,672
浪乃木町650	10,121	10,042
乃台町720	3,744	5,317
忌部町中9	2,941	4,132

### 交通量

・増えたとはいえるが、へったところもある。  
 ・増えたとはいえるが、ほとんど住宅地から市街地に向けて通っている道で、わりと新しい道で、広くなるといっていいものが多い。  
 ・新しい道や広い道が不足していると、新しい道を通っている車が別のところを通るの、交通量はへってしまう。

### 結論・新たな課題

人口が増え、住宅地が拡大すると、会社のある市街から遠い所に住む人も増えてくる。市街地から遠いので、出勤する時など車を使う人が多くなる。というところでは、住宅地の拡大は交通渋滞が起きる原因の一つになっている。  
 車の所有が増え、車を利用する人も増える。車が少ないと、車が少ないと、交通渋滞はなってしまう。だから、車の所有の増加、車の通数の増加も原因の一つとなっている。

第12時の発表・検討会が終わって、せまく曲がりくねった道の多い松江の道路事情の実態と歴史性を明らかにするために、1600年代前半に堀尾氏が建設した城下町の様子を現在も留めている鉤型路や半間路地をTPで見たり、古地図と比較したりしながら、城下町の構造と建設の意図を考えていった。また、同じ城下町として発達した名古屋と比較し、戦争の被害を受けなかったという違いが、2つの街を大きく変えていったことも学習させた。松江の交通渋滞の原因の一つである道路事情の面において、こうした歴史的な背景があることに生徒は驚きを示し、この単元の最後の感想の中に次のように書いている。



- この交通渋滞の問題について、戦争の時に、戦火を受けずに、そのまま残った城下町の良さが今になって一面に出ていることにびっくりした。(T・W男)
- 松江の交通渋滞の原因がたくさんあってびっくりした。特に過去の歴史にも関係するなんて思いもよらなかった。(S・W女)

(3) 問題点の究明

この第13時では、今までと視点を変えて、行政側ではこの交通渋滞の問題にどのように対処しているのかを①松江の財政支出に占める道路整備費用の割合(S.59年) ②島根県警察本部交通管制センターの果たす役割(S.55年4月管制開始) ③上乃木-菅田線(くにびき大橋を含む)の全線開通(S.57年9月)前と後との変化 ④松江の都市計画の4点にしばって、統計資料やV・T・R、パンフレット、新聞記事を中心に学習を深めた。そして、交通渋滞解消のために道路一本建設するためにはどのような問題が考えられるか話し合った。3組で出された問題点は次のようなものであった。

- ⑦ 莫大な費用が必要
- ⑧ 住民のたちのき問題をはじめ、地域住民の反対運動が予想される。
- ⑨ 松江の伝統的な町並みの保存との関係(古いものと新しいものとの共存)をどう考えるか。
- ⑩ 交通(車)の流れが変わることによって、商店等にどのような影響がでるか。

(4) 問題解決のあり方

本単元最後の学習(第14時)として、交通渋滞を解消するためにはどのような方策を立てていけばよいかを生徒一人ひとりに考えさせた。前時の学習で、道路一本建設するのにも様々な問題点が予想され、事態の複雑さに生徒の意識が混乱しているために、解決への糸口として行政側、自動車利用者側、会社・工場・商店側と立場を分けて方策を話し合わせ、残り15分のところでワークシートに自分の考えを書かせ、全学習を終了した。生徒の考えた方策の主たるものは次の通りである。

行政側	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交通管制システムを広げていく。</li> <li>○交通情報を流していく。</li> <li>○道路の整備計画を見直し、できる範囲で改善を図っていく。</li> <li>○橋の建設が必要だが、それに続く道路については、住民側と十分話し合っていく。</li> <li>○公共交通機関の利用を呼びかける。</li> </ul>
自動車利用者側	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マイカー利用の自粛。</li> <li>○渋滞に合わないよう余裕を持って出かける。</li> <li>○違法駐車等交通ルールをお互いに守る。</li> <li>○徒歩や公共交通機関の利用を心がける。</li> <li>○相乗りを心がける。</li> <li>○自動車・バイクの放置やでたらめな運転をやめる。</li> </ul>
会社・工場・商店側	<ul style="list-style-type: none"> <li>○送迎用のマイクロバスを運行する。</li> <li>○商工会議所等で始業時刻を調整する。</li> <li>○従業員のマイカー通勤を自粛させる。</li> <li>○駐車場を広げ整備する。</li> <li>○郊外への分散を進める。</li> </ul>

2. 考察と今後の課題

以上の実践は、「学びとる力」を育てていく上でどのような効果があったのだろうか。①生徒の交通渋滞への認識はどのように深まっていたか ②社会事象(問題)へ問いかけ又は問い続けようとする態度はどのようであったか ③科学的方法で原因を追究する仮説-検証はうまく行われたかの3つの視点から考えてみたいと思う。なお、検討のために授業実践・感想並びにレディネス調査・野外観察報告書・社会事情検証報告書・交通渋滞解消への方策ワークシートを吟味することにする。

(1) 認識の深まりはどのようであったか

レディネス調査によれば、学習に入る以前に交通渋滞の問題を指摘した生徒は一人もおらず、問題の発見の場面によって、この問題を意識しはじめたのである。しかし、認識の深まりについては個人差があるものの、実際に重大な問題だと感じはじめたのは野外観察で住民の人々の意見を聞いたり、社会事情でいろいろな原因を予想し、その実態を明らかにして行く過程においてであった。そして、その段階においていろいろな要素が関係し合っただけでなく、交通渋滞をひき起こしていることに気づきはじめていたのである。次の生徒の感想によってそれを知ることが出来る。

- 今まで交通渋滞なんてそれほど深く考えたこともなかったのに、この野外観察を終えてから交通渋滞には、人々に深く関係があるものなのだなあと思わせられた。(M・O男)
- 検証を終えて、交通渋滞の原因は単なる「車が多い」ということだけでなく、いろいろな理由があることがわかった。「交通渋滞」という1つの問題が、会社・信号・車・住宅など、いろいろなことに関連していることがわかった。(N・K女)

しかしながら、この段階においては、まだ道路をつければ問題は解決するといった、安易な考えが強く、この問題の本当の難しさを知るのには、次の松江の城下町としての発達の歴史や行政側の努力等を学習してからである。この学習を終える段階に至って、生徒の認識も多角的・多面的に、かなり深まったものとなり、交通渋滞解消のための方策の難しさが実感されるのである。

- 交通問題について、今まではちょっと何かすればすぐ解決するものというふうに考えていた。でも勉強してみて、そんなに簡単には解決しないんだなあと思った。いろんな立場から、いろんな事を考えるとなかなか「よい方策」というものが見つからなかった。(A・A女)
- 松江は人口が少ないので交通渋滞がおきてるなんて思ってもみませんでした。それで解決策をいろいろ考えてみて、片方をうまくおさめたつもりでも、もう片方はうまくいかないということがだいたいなので、交通問題(渋滞)とは難しいものだと思います。(Y・K女)

以上、生徒の認識の深まりについて見てきたわけであるが、認識をより多角的・多面的に深めていくためには、ねらいを明確にした上で追求させていくこと、計画的にあらゆる視点から問題をとらえ直させていくことが何より重要なポイントではなからうか。この学習を通して、今まではぼんやり見ていた松江の町を新たに見つめ直し、多くのものを発見した生徒が数多くいたことを付け加えておく。しかし、身近な地域のように野外観察という形で、直接体験できる教材なら問題発見の場面での意識の低さも取り戻すことができるものの、そうでない教材の場合、この段階における生徒の意識の高め方が大きな問題となつてこよう。

(2) 問いかけや問い続けようとする態度はどのようであったか

問題解決(探究)型の学習の大きなねらいの一つは、自ら課題に問いかけ、立ち向かおうとする態度を育てることである。今回の学習を振り返ってみて、生徒のそれはどうであっただろうか。感想文の中に次のような意見が数多く見られた。 ◦この学習を通して松江の問題を考えることができた。これからも松江について考えていきたい。(T・N男) ◦めんどくさいと思っていたことがやっ

みるとなんだかとても楽しくなりました。(M・Y女) これらの気持ちは、〇聞きに行ったり、まとめたりするのはとても大変だったけれど、自分たちだけでやったんだ、ということでもよい学習だったなあとつくづく思います。(K・T女) 〇調べているうちに、自分たちは、人よりバスのことをよく知っていると思うとうれしい気持ちでいっぱいになった。(H・S女) という、やり遂げたことへの自信と満足に裏うちされた確かなものであった。そして、この松江の交通問題の学習を支えたものは、生徒たちが県庁・市役所・図書館をはじめ、駅やバスの営業所・商工会議所等を一生懸命に資料収集・聞きとり調査に歩き回った意欲と行動力にあったと言えよう。中には、野外観察が天候の関係で思うようなものにならなかったということで、再度、調査に出かけた班もあった。しかし、班長や一生懸命にがんばっている者に、ただついて行くといった者もあり、個別指導・班指導のあり方が今後の大きな課題として残った。

### (3) 仮説―検証活動はどのようなものであったか。

一斉指導に慣れた生徒にとっては、自ら追求する仮説―検証という作業に抵抗を感じる者も少なからずいた。これは、確かめのための資料を「証拠」として使うことにまだ慣れていないためだと考えられるが、つまずきの原因を分析してみると①仮説を検証するための資料想定がうまくなされなかった ②想定された資料が見つからなかったという2点に大別される。①については、モデルを使った指導の不徹底ということがあげられるが、想定した資料についての検討をどこかの場所で行っていかなければならないと考える。また、個別(班)指導の充実を図っていく必要も痛感させられた。②については、必要な資料はどんな図書を調べたり、どこに行けば手に入るのかを指導したり、調査計画を見直したりしていかなければならないだろう。

この検証活動において生徒が想定した資料は多種多様であったが、その中でも島根県統計書(各年度版)、松江市統計書(昭和60年版)、町別人口及び世帯数の推移(昭和48年～昭和60年)、地形図( $\frac{1}{25,000}$ 、昭和33年・55年・60年)や市営バス・一畑バス・一畑電鉄の利用者及び運賃の推移など検証に有効な資料も数多く提出された。しかし、聞きとり調査を数多くの班が実施しているものの調査数が少ないために証拠としては不十分なものであった。検証資料としての有効性を持つための条件というものを指導していかなければならないことを強く感じた。また、アンケート調査が行われなかったのが残念であった。このように資料の質的な差はあるものの、社会事情の面では検証資料が数多く収集されたが、道路事情の面では仮説に具体性を欠いたためか、仮説を判断する基準が不明確なものとなり、生徒の主観的判断に頼る結果となってしまった。松江の町をこうした視点で見直させることはできたが、検証活動とまでには至らず、仮説の具体化を進める必要を痛感した。

生徒の資料収集活動に際して、こちらも事前にそれらの資料を収集していたが、できるだけ生徒自身に収集させるようにアドバイス程度にとどめ、どうしても手に入らないものだけこちらの資料を渡した。しかし、一度に多数の生徒が使用するために相当部数の資料を準備しておかねばならず、資料の確保に一層努めなければならない。

## IV おわりに

これまで、本校社会科部が構想した「学びとる力」を育成するための問題解決(探究)型の学習の

考え方に従って、地理的分野「身近な地域」の学習はどのようにするのか、松江の交通問題の学習を事例にその実際や有効性について検討してきた。そして、多角的・多面的にまた、科学的に社会事象を追求していく上で仮説―検証学習が有意義であり、それは、主体的に学習する態度や能力を育てることにもつながることを学習活動の様子や生徒の感想から多少なりともとらえることができた。

しかし、①生徒の意識を高める「問題の発見」の指導のあり方 ②作業仮説づくり・資料想定の方  
 導 ③検証資料を検索する能力を高める方法 ④検証結果を方法論的に吟味する検討会等のあり方  
 ⑤検証資料の収集・整備 ⑥個別(班)指導のあり方などいくつかの問題点も今後の課題として残った。  
 また、今後このような問題解決(探究)的な学習をカリキュラムの中に位置づけ、繰り返し計画的に  
 指導を続けていくことが大切だと考える。最後にこの学習を終えた生徒の感想を載せて、締めくく  
 りにしたい。

松江にも交通渋滞という大きな問題があることを実感しました。野外観察で聞きとったあのAさんの「夜もうるさくなりました。朝なんか渋滞じごくです」ということばがまだ耳の奥深く残っています。また、資料からでも車の所有台数が年ごとに増えていることがわかります。ぼくたちは、最初、一心に道を増やせばよいじゃないかなどという非現実的なことを考えていました。それがだんだん勉強するうちに、そうもいかないということがわかりました。はっきり言って、一つの大きな解決策をつくることはできませんでした。しかし、ぼくたち21世紀をになうものは、この大きな問題を解決しなければならないと思いました。(A・M男)

- 〈注〉1) 山崎裕二他著「学ぶ力を育てる学習(第二年次)―学びとる力を引き出す授業の実践―」  
 『第30回研究発表協議会要項』(島大附中昭和61年) P.39~54、山崎裕二他著「地域の社会的  
 的問題を取りあげた公民的分野の指導 ―特設単元『中海・宍道湖の淡水化問題と住民運動』  
 を事例に―」(『島大附中研究紀要、第28号』昭和61年) P.39~58
- 2) 山崎裕二「中学校カリキュラムの新構想」(昭和61年度教員養成大学・学部教官研究集会  
 発表資料)
- 3) i 平田嘉三・社会科地域学習研究会著『社会科地域学習の授業モデル』(明治図書 1980  
 年) P.35~47  
 ii 篠原昭雄著『地域教材を活用した地理的分野の授業』(明治図書 1983年) P.7~21
- 4) 岩田一彦「地理的分野研究の総括と研究課題」(明治図書『教育科学社会科教育』No.272  
 1985年) P.156~157、勝又将雄「『身近な地域』(中学校)での地域資料の条件」(明  
 治図書『教育科学社会科教育』No.283 1986年) P.90
- 5) 3) i P.77~80に準拠して昭和57年に本校で作成したアンケート調査による。(抜粋)

〈主な参考文献〉

- 篠原昭雄著『地理教育の本質と展開』(明治図書 1984年)
- 高山昌之編『地理的分野の授業理論』(明治図書 1984年)
- 岩田一彦編著『地理教科書を活用したわかる授業の創造』(明治図書 1984年)
- 松尾 寿著『城下町松江を歩くI ―松江の誕生と町のしくみ―』(たたら書房 1986年)